

「野生鳥獣との共存に向けた生息環境等整備」
連絡会議 議事概要

日時：平成25年3月6日（水）13時15分～15時40分
場所：四国森林管理局 大会議室（高知市丸ノ内1-3-30）

注：以下ニホンジカをシカと表記する。

- 1 開会 佐賀指導普及課長
- 2 計画部長挨拶 斎藤計画部長
- 3 出席者紹介
- 4 議事 司会：佐賀指導普及課長
 - (1) 剣山、三嶺地域にかかる関係機関のシカ害対策等について
 - ① 四国森林管理局
資料1及び委託調査報告書に基づき山崎企画官から説明
 - ② 中国四国地方環境事務所野生生物課
資料2に基づき渡部野生生物課長から説明
 - ③ 徳島県自然環境室
資料3に基づき森本係長から説明
 - ④ 高知県鳥獣対策課
資料4に基づき大野主任から説明
 - ⑤ 香美市（産業振興課）
パワーポイントにより公文総務係から説明
 - ⑥ 「剣山系のウラジロモミ林、シラビソ林及び稜線部のササ草原に及ぼすニホンジカの影響」
パワーポイントにより石川慎吾委員から説明
 - ⑦ 「シカ食害で進む三嶺（徳島側）の浸食」
パワーポイントにより暮石委員から説明
 - ⑧ 「三嶺山域におけるシカ食害の変遷と対策の現段階」

どう守る三嶺・剣山系の森と水と土・シンポジウム（6）資料集に基づき依光委員から説明

（2）意見交換

：三嶺頂上ネット柵下の南面は、冬季において常に数十頭のシカが目撃される主要な餌場となっている。斜面が急でササ枯れによる災害発生も危惧されるこの場所をどう守るかが大きな課題となっており、ネット柵の位置を林縁まで下げる対策を早急にお願いしたい。

：徳島県自然環境室

当地は積雪が多く雪害によるネット柵倒壊の危険性を避けて設置している。また、予算は既存のネット柵の維持修繕費をまかなうのがやっとという状況にあることから、即座にネット柵の延長・新設に対応することは難しい。

：徳島森林管理署

山頂のネット柵は、シカが高標高地に上がってくる中、シカの絶好の繁殖地になる恐れの高い山頂部を保護する目的で設置したものであり、緊急を要することから徳島県が国有林も含め一括して設置した。下部は国有林であるが、仮にスチールのネット柵を設置しても、雪崩の圧力や頻繁に落石がある当地では保守が困難である。

：捕獲空白域である南面を守るためには、ネット柵を設置するしかないのでは。また、雪害はネット柵を林縁または林内まで下げることで逆に少なくなるのではないか。

：四国森林管理局

ご意見は今後の検討課題とさせて頂きたい。

：昨年へのりによる空撮写真は、被害状況把握等シカ対策に大変有効であり定期的な撮影をお願いしたい。撮影時期はササの被害状況を適切に評価できる夏場のササ最盛期にも一度撮影をお願いしたい。

：四国森林管理局

昨年の写真は、高知県警の協力の下県警のへりにより撮影したも

のであるが、今後も機会を捉えシカ対策に活用できる空撮写真を撮れるように努めたい。

：携帯電話による捕獲自動通知システムの開発報告が複数あったが、山間部は谷間等通話できない場所も多いことから、小電力の無線と携帯電話を組み合わせる通話エリアを広げるシステムを開発する可能性はないか。

：四国森林管理局

通話エリアの拡大については、携帯による自動通知システム導入にあたって情報を集めた折、数十万円程度で多少通話エリアを拡大するシステムがあったが、エリア拡大のための中継器に電源が必要であり、長時間バッテリーを持続させる必要があることとエリア拡大範囲が限られることから導入を断念した。

：高知県鳥獣対策課

捕獲実験を実施するために、候補地である三嶺を調査した。三嶺(天狗塚から三嶺にかけて)は携帯電話の通話エリア外であり、自動通信システムを使った捕獲実験は困難な状況である。

自動通知システム普及のためには、むしろ、通信会社に通話エリアを広げてもらう活動が必要だと感じている。

：通信エリアを三嶺の谷間まで広げることは無理だろうから、谷間から通話エリアまで無線でとばす技術を今後検討頂きたい。

：徳島森林管理署

暮石委員から報告のあった旧登山道の荒廃地については、平成25年度の治山事業で、環境に負荷をかけないように主に木材を資材として土留工を施工し被害拡大を防ぐこととしているが、密集していたスズタケを枯死させたシカの食害があり、光量も不足する当地において、どういう緑化が可能かご指導頂きたい。

：候補種としてテンニンソウがあるが、1種類だけの緑化は無理で、光条件や立地条件に応じた適材適所の種を探し組み合わせる必要がある。色々な条件下で調査をしているが多年草でシカ食害地の表土を覆う種は見当たらない中、一つだけ照度30%は必要だがコハリ

スゲは使える感触はある。ただ、発芽条件はまだよくわからない。いずれにしても当然斜面の固定は必要。

：高知県から、自動通知システムを利用したくくりわなの捕獲試験の報告があったが、ツキノワグマが生息する三嶺での使用は錯誤捕獲の危険性がありどのように対処する考えか。

：高知県鳥獣対策課

ご指摘のとおりツキノワグマの錯誤捕獲の問題がある三嶺への導入は難しいと考えており、西熊山で少人数での巻き狩りによる捕獲導入を中心に検討する考え。

：シカ個体数把握の手法として、雪のふる冬にヘリにより空撮した写真で把握するヘリセンサスという方法があるが、実施できる可能性はないのか。

：四国森林管理局

昨日、県警に、三嶺周辺を飛行した際にはヘリに搭載しているカメラで空撮し、できればシカの頭数を数えられるように撮って頂きたいと依頼したところであり今月中には撮影してもらえらると思う。

：ヘリセンサスは、積雪期の快晴時に撮影が必要など撮影のタイミングが難しいがその点は考慮されるのか。

：四国森林管理局

今回は単に撮影依頼をただけだが、ヘリには赤外線カメラと可視カメラが搭載してあり両方のカメラで撮影してもらおうよう依頼している。

：グリーンシーズンのシカは、日中は樹林内にいてササ原にでてくるのは夕方とか夜が多く、日中の撮影では個体数把握は難しい。

：四国森林管理局

今回は明け方に撮影すると聞いている。なお、撮影する季節等は、県警の審査により公益性等目的が適当と認められれば、当方の申請時期に応じた弾力的な対応も可能と考える。

：愛媛県でも、佐々連尾のシカ生息密度が15～30頭／km²となるなどシカの生息域が拡大する中、愛媛県は、本年度緊急対策事業

により石鎚山系の調査も実施しており今月中には報告がある。シカの生息密度が15頭／km²以上になると急激に増殖するため対策が困難となるが、それを防ぐためには防護ネット等では根本的な解決にならないことから、銃器による捕獲についてどのように考えているのか。

：四国森林管理局

ご指摘のとおり、石鎚山系周辺まで生息域が拡大し生息密度も増加している状況にあることから、当局においても、本年度石鎚山系の生息密度調査等を実施したところ。愛媛県の緊急対策事業では調査とともに関係機関による連絡会をたちあげており、連絡会で調査結果を踏まえた対策を検討する中で、銃器等での捕獲による密度調整の必要性も検討されると考える。

：石鎚山系は、剣山・三嶺山系のようにならないようなんとか守りたいと考えているので協力願いたい。

5 閉会 佐賀指導普及課長